

慶應義塾大学病院内で行う ロービジョンケアの 取り組みについて

公益財団法人 日本盲導犬協会
視覚障害サポート部
管理長 金井 政紀



Background(背景)

2024年4月1日

- 慶應義塾大学眼科学教室(以後、慶應)と公益財団法人日本盲導犬協会(以後、協会)は共同研究として「ロービジョンケアに対するカウンセリング効果の研究」を開始

2024年7月1日

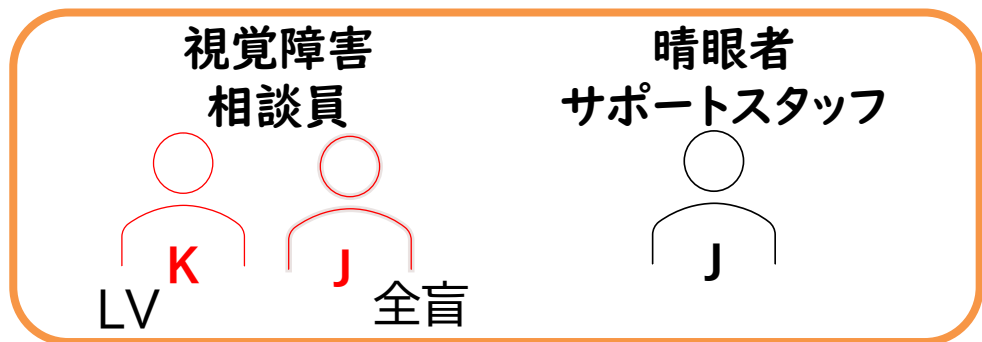
- ロービジョンケアを必要とする視覚障害者に対して、福祉、教育、就労、生活の工夫など様々な分野の情報を病院内で提供し、地域の支援 機関や団体へつなぐハブ拠点となることを目的として、院内に相談スペースである「ロービジョンケア・ハブ」を開設
- 運営は、慶應と協会が共同で行う

Purpose(目的)

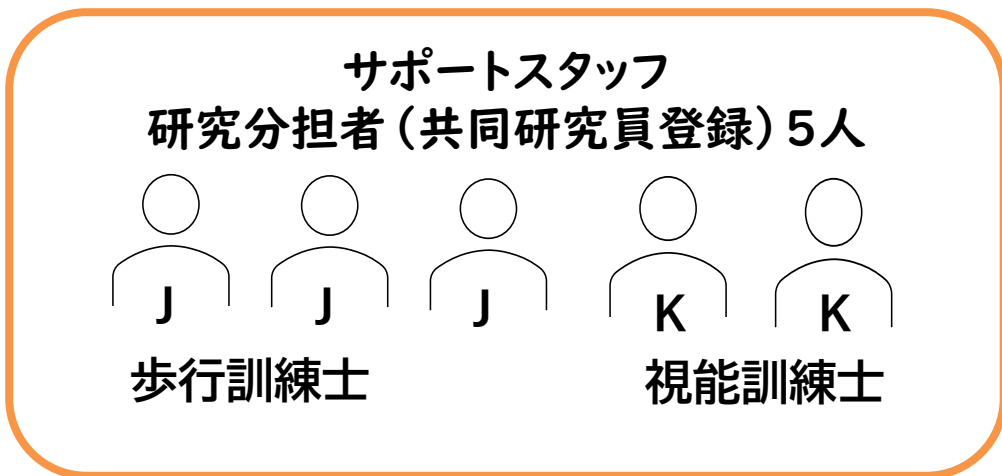
ロービジョンケアを必要とする患者やその家族に対して
早期に様々な情報を伝えられること、視覚障害リハビリテ
ーション導入のハードルを下げることを医療従事者と盲導
犬協会が連携する意義を報告する

Method(方法)

基本：3人体制(相談員2名＋サポートスタッフ1名)



(所属) K:慶應 J:日本盲導犬協会



★ケア・ハブ運用概要

【日時・時間】 月・火・木・金の週4回 10時～16時
(12時～13時:昼休憩)

【相談員】視覚障害当事者の相談員2名

【スタッフ】サポートスタッフ1名

盲導犬歩行指導員&歩行訓練士(協会)

視能訓練士(慶應) 事務職(協会)の晴眼者

【相談】予約なし 相談費無料 同病院患者以外もOK

【相談時間】数分～1時間程度の相談

【院内】病院代表電話交換台からケア・ハブの内線電話
4階眼科受付や診察室の先生から内線電話

【SNS】 病院眼科学教室HPにリンク
メールアドレス インスタ開設

Method(方法)

相談対応の流れ

相談者



簡単な聞き取りとケアハブの説明
対応の精査(×疾患・症状)



相談員と相談開始



共同研究参加確認(署名)



カタログや提供資料お渡し

(目安:1時間程度)

相談者が同時に2名の時には
サポートスタッフ2名分のサポート

サポートスタッフ

- ・相談者の第一対応
- ・相談内容にあう資料準備
- ・インターネット検索印刷
- ・機器類操作説明
- ・必要なサポート

その他

- ・相談記録と集計
- ・備品管理
- ・資料補充
- ・パンフレット依頼
- ・問い合わせ対応
- ・眼科外来迎え

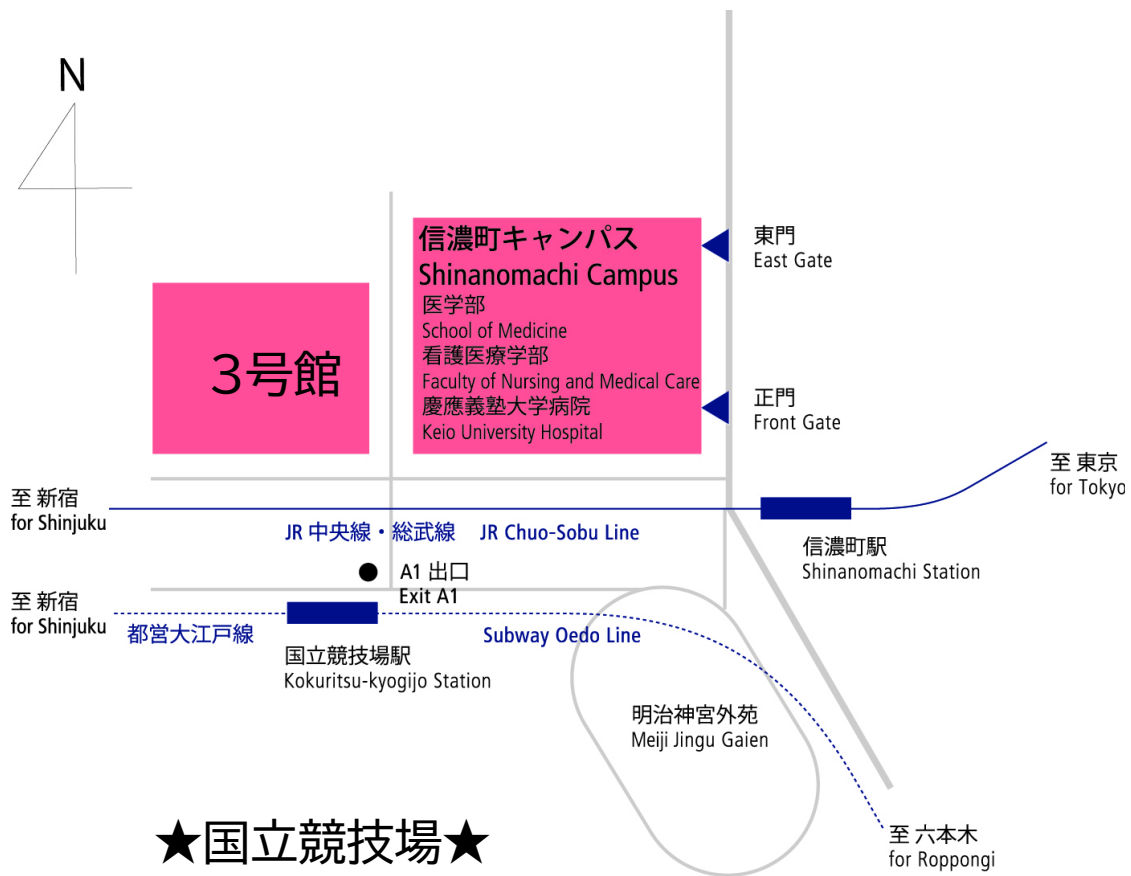
★サポートスタッフの心得★

視覚障害理解、支援内容の理解、備品操作取り扱い
コミュニケーション力、情報収集力

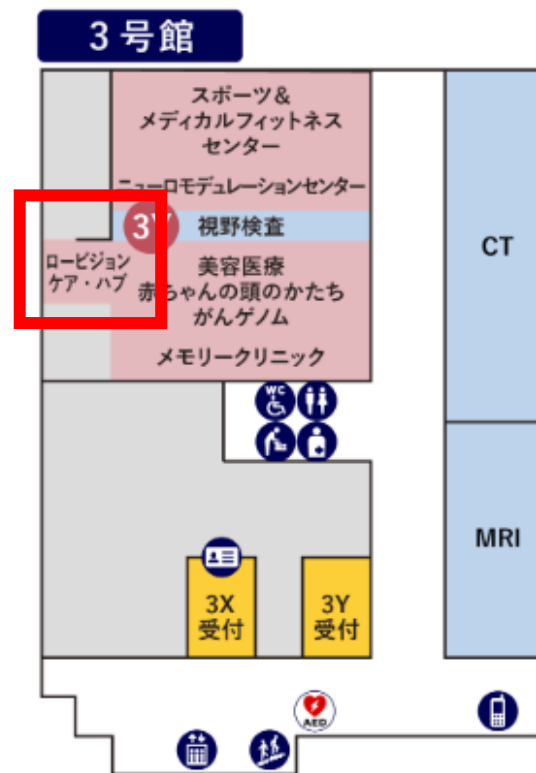
この研究(相談対応)は、慶應義塾大学医学部倫理委員会の倫理審査受理済である(承認済番号20231231)

慶應義塾大学病院の位置

東京都新宿区信濃町35



慶應義塾大学病院 外来案内図 (3階)



外観



公益財団法人
日本盲導犬協会
×
慶應義塾大学病院 眼科

ロービジョンケア・ハブ

予約不要！相談無料！

文字が見えにくい方、まぶしさがある方、
その他 見え方にお困りの方、
視覚障害当事者を含む 経験豊富なスタッフが
あなたの見え方により良いご提案を
させていただきます。お気軽にお越しください！

相談時間 月・火・木・金 10:00~12:00 13:00~16:00
※祝日は外来診療日はオープン（12時~13時は利用できません）

場 所 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学病院 3号館 3階 3Y

お問合せ TEL：03-3353-1211(代表)
内線：68778

QRコード

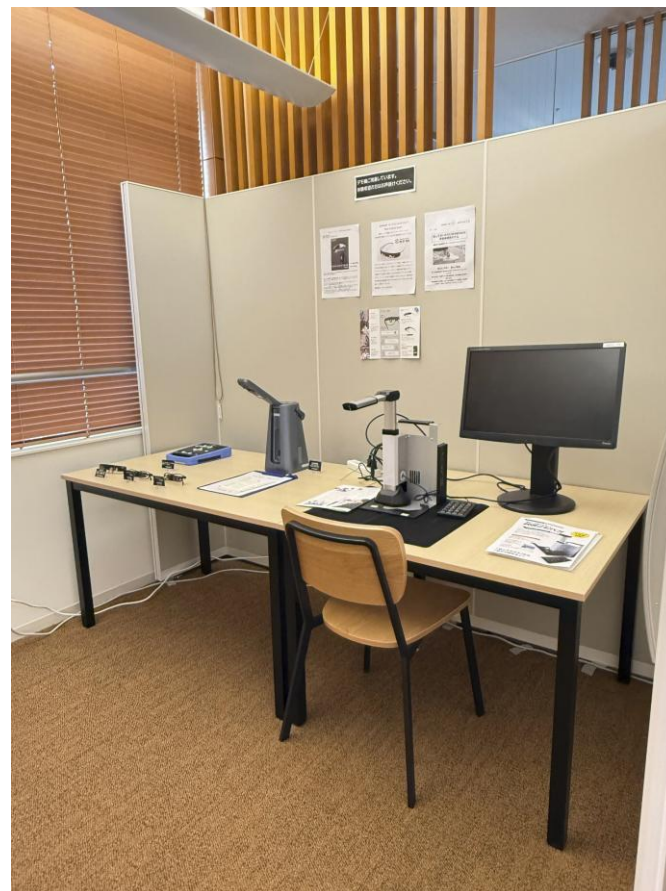
ホームページは
こちらから！

チラシ



遮光眼鏡

拡大読書器



音声読み上げ機器類

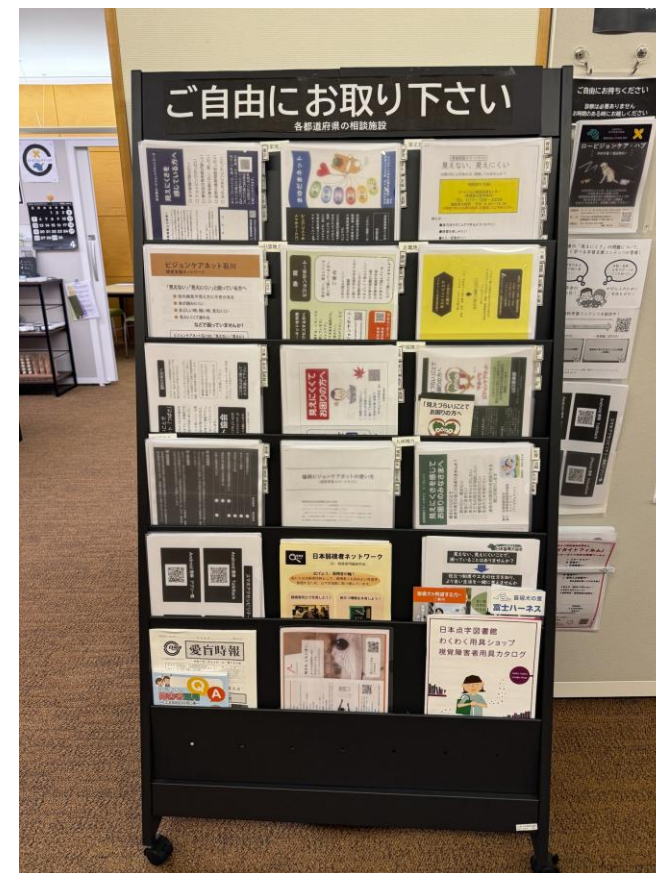


便利グッズ

白杖・資料



資料



スマートサイト資料

Results(実績)

(1) 来場者数・相談件数(2025年10月31日現在)

総来場者数(軽微な相談者含む):551名

月平均開室日数:16.44日

1日平均来場者数:2.1名

相談(同意書取得)件数:358件

〈内訳〉

男性:156名(43. 6%)、女性:202名(56. 4%)

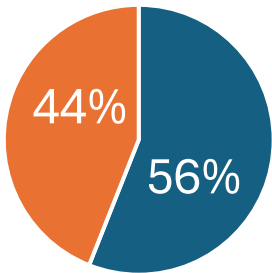
平均年齢:59.15歳(男性:60.5歳、女性:57.9歳)

新規:320名(89.4%)、リピーター38名(10.6%)

慶應患者:226名(63.1%)

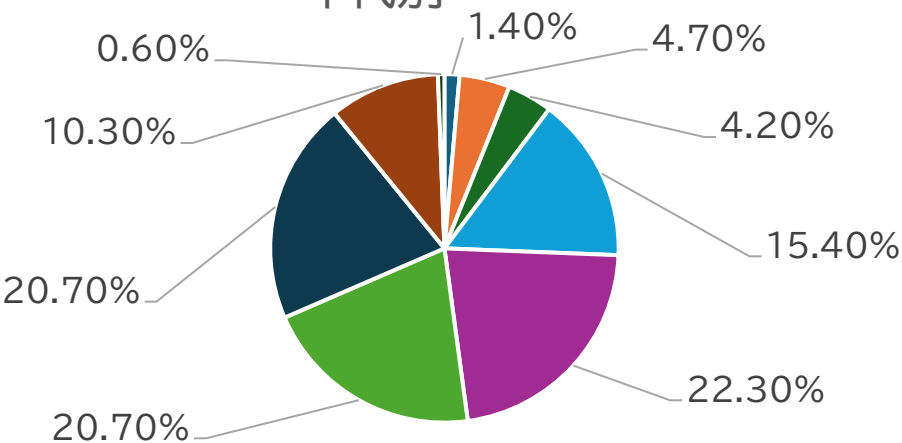
慶應患者以外:132名(36.9%)

性別



■ 女性 ■ 男性

年代別



■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代
■ 60代 ■ 70代 ■ 80代 ■ 90代

Results(実績)

(2) 相談内容件数(複数回答可)

残存視覚の活用:195件

光学的視覚補助具、非光学的視覚補助具、照明

視覚以外の感覚の活用:51件

音声機器、点字

情報入手手段の確保:80件

スマートフォン、ラジオ、パソコン

その他の生活改善:209件

歩行訓練、点字・音声図書、生活訓練、ICT訓練、便利グッズの活用

進路の決定:17件

特別支援学校、職業訓練施設

福祉制度の利用:75件

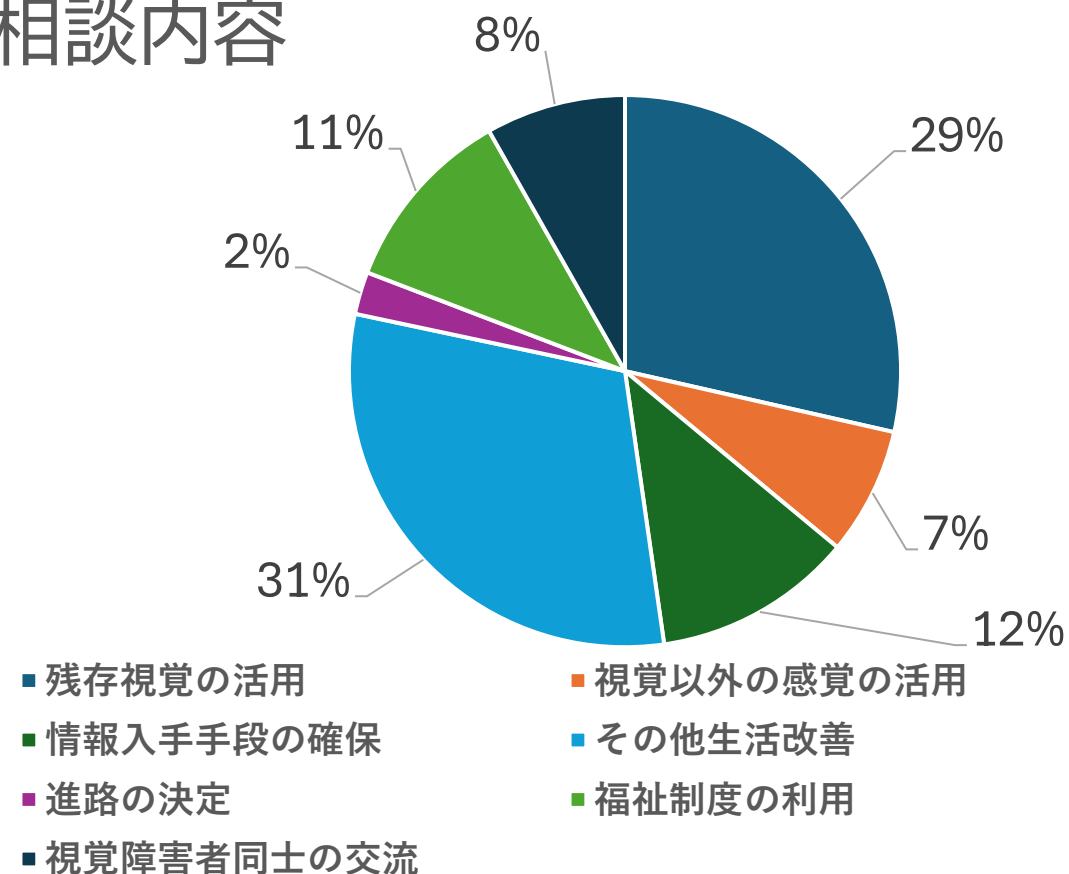
身体障害者手帳、障害年金、同行援護、ガイドヘルパー

視覚障害者同士の交流:56件

関連団体、患者交流会

※上記相談内容項目は共同研究のプロトコルに定められているカウンセリング項目

相談内容



考察(Discussion)

- 相談者は、「何ができるのか」「どこに相談すればよいのか」がわからない
 - 院内で、医師からの紹介で繋がる 相談へのハードルが下がる
- 盲導犬に関する相談は少ない
 - その前段階の相談 グッズを使った日常生活の工夫など
- 話を聞いてもらえる、自分の想いを話せる場所
 - 地域の支援団体等の情報提供 つなぐ

Outlook(見通し)

調査データから、眼科で診断を受けた患者がQOL低下の不安を解消するために眼科で情報が得られるニーズが望まれていることが明確になった

→早期段階で福祉へ繋がる場の提供と機会

日本では、眼科で視覚障害リハビリテーションを提供する体制が充実しているとは言えず、患者は気持ちが沈み家に引きこもってしまったり、社会との接点を一時的に見失う状況に置かれることも多い

Outlook(見通し)

当協会(JGDA)には、盲導犬育成部署の他に視覚障害リハビリテーションを提供する部署がある。白杖などの歩行訓練、ICT、日常生活にわたり、相談から訓練対応を行っており、**盲導犬取得までをワンストップ**で対応できる特徴がある。さらに**盲導犬ライフ終了後もサポートできる。**

眼科から早期に視覚リハビリテーションに繋がり、将来、盲導犬を希望する道のりは人によっては旅のようなものかもしれない。その**最初の一步**に当協会は患者と出会う価値がある。

Acknowledgements (謝辞)

ロービジョンケア・ハブの運営ならびに本研究の実施に当たり、多大なご支援とご協力を賜りました慶應義塾大学医学部眼科学教室 教授根岸一乃先生、同准教授栗原俊英先生をはじめ、他スタッフの皆様と国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)【課題管理番号:25dk0310124h0003】に深く感謝申し上げます。